

2026  
ズバリ! 的中



世界史

# 慶應義塾大学

スペインによる侵略後に中南米の先住民人口が  
大きく減少した要因に関する論述問題が的中

## 入試問題

2月13日実施 経済学部  
大問II 問6②

II スペインによるアメリカの植民地支配について述べた次の文章を読んで、問6～問10に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて〔解答用紙A（マークシート）〕の所定の解答欄にマークしなさい。

コロンブスによる「発見」を支援して以降、スペインはメキシコ以南のアメリカ大陸に積極的に進出した。先導したのは「征服者（コンキスタドル）」と呼ばれる人々で、彼らは金銀財宝を求めて探検の計画を練り、王からは許可だけを得て、自ら資金を調達し、新大陸へ渡った。彼らは数的に劣勢でありながら、A先住民の王国を打ち破り、以降3世紀にわたるスペインの植民地支配が始まる。

征服活動と並行して先住民統治の試行錯誤が始まったが、その初期段階においては実験的な試みも見られる。例えばメキシコに行政官として派遣されたバスコデーキソガは、私財を投じて先住民集落を作り、人文学者トマス・モアがB『ユートピア』で描いた架空の理想社会の特徴を、新大陸において再現しようとした。土地を共有財産とし、全住民が同じ質素な衣服を着て1日6時間労働に従事するキログの計画村は、うまく経営されていたことが知られている。しかしその後、本国スペインがC改革的な思想に対して不寛容になると、このような試みは行われなくなった。

征服活動が一段落すると、スペイン王室は新大陸における王権の強化に乗り出す。本国の行政機構が導入され、それまで征服者らが担っていた業務は王室官僚の手に渡った。こうして植民地体制が整備されるとともに、メキシコおよびアンデスで発見されたD銀山の開発も本格化していった。なお、E17世紀以降に形成された北米地域の植民地とは異なり、スペイン領アメリカ植民地では支配者であるスペイン人と被支配者である先住民との間で混血と文化混濁が進行した。

問6 下線部Aに関連して、次の文章を読んで、以下の①、②に答えなさい。

スペインによる侵略が始まった頃、中南米には王国を築くまでに発展した先住民社会がいくつか存在した。それらの内、アステカ王国の首都（ア）は征服者コルテスによって、インカ帝国の首都（イ）はピサロによって、それぞれ短期間のうちに占領された。一方、（ウ）を中心に栄えていたマヤ文明の場合、アステカやインカとは異なり小王国が多数存在していたため、征服活動は長期間に及んだ。スペイン人の到来後、約一世紀の間には、中南米の先住民人口は大きく減少したが、それを補うように黒人奴隷が運び込まれた。

② 下線部aについて、この時期に中南米の先住民人口が大きく減少した要因を、〔解答用紙B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

## 河合塾

高3 1学期 世界史論述  
第9講 2

◆入試問題出題例◆

2. スペイン王室がラテンアメリカに有する鉱山では奴隷が働いていた。その奴隷の主な出身地に触れつつ、奴隷も労働力として必要とされるにいたった経緯を、2行（60字程度）で説明せよ。（2021 慶應義塾大学・経済）

解答例

2. スペイン人がもたらした伝染病と、エンコミエンダ制の下での酷使で先住民が激減し、アメリカから黒人奴隷が持ち込まれた。